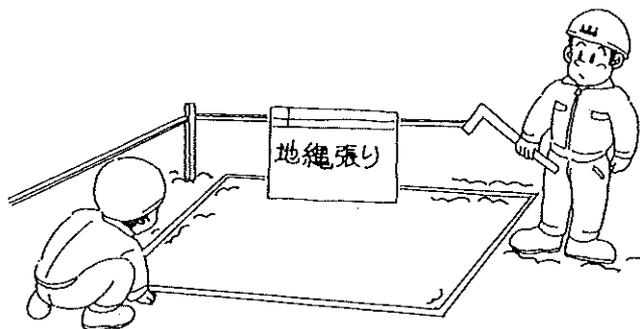


2 本 体 工 事

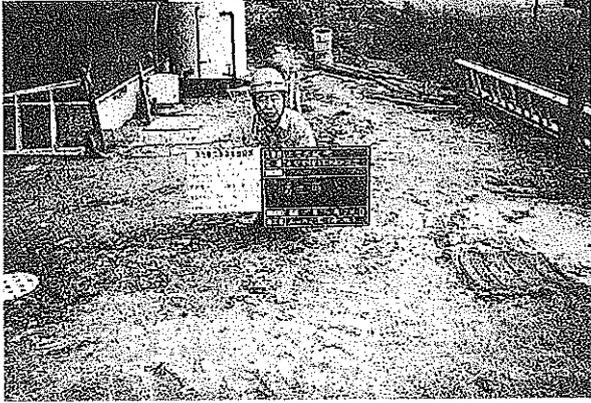
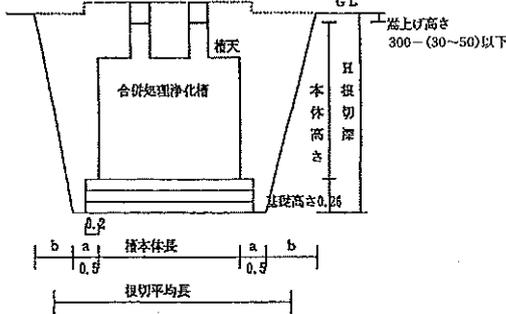
標 準 施 工 (10 人槽以下)

2-1 受入検査・遣り方

工 事 名	概 要	注 意 事 項
(浄化槽の受入検査)	<ul style="list-style-type: none"> 製品を受領の際には、外傷の具合や部品の不良がないか等の検査を行う。 	<p>参 考</p> <p>浄化槽の受入検査チェックリスト例を前ページに示す。</p>
(運 搬)	<ul style="list-style-type: none"> 現場への搬入に際しては、クレーン等を使用し、ゆっくり降ろし、ぶついたり、引きずったりしないよう注意して取り扱う。 	
(保 管)	<ul style="list-style-type: none"> 保管に当たっては、車両等によって損傷を与えない場所、石等突起物のない所を選ぶようにし、本体を損傷しないよう十分注意する。 	
(地縄張り、遣り方)	<p>①敷地整理が完了後、浄化槽の設置位置を決定するために地縄張りを行う。</p> <p>②レベル、位置、方向、芯を表示するために遣り方を設ける。</p> <p style="text-align: center;">浄化槽の位置を確認するため、地縄張りと遣り方を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 設置者及び工事関係者立会いのもとに、敷地、建物、敷地境界との関係を確認する。



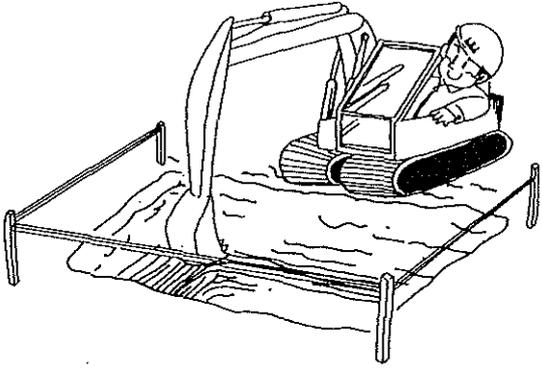
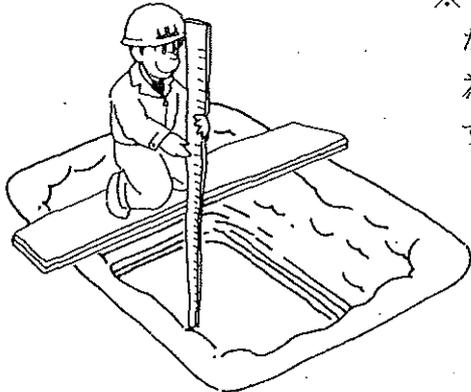
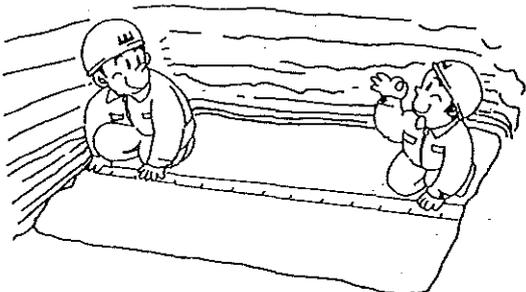
2-2 掘削

工 事 名	概 要	注 意 事 項
	<p>・〔指定工事写真〕写真1 浄化槽設備士が実地に監督していることを証する写真。</p> 	<p>設置予定地、地面、家屋と共に写っていること。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 標識板 ・ 黒 板 ・ 設備士顔写真 </div>
<p style="text-align: center;">掘 削 工 事</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 掘削作業 ・ 土質により適切な工法により山止め工事を行う。 ・ 浄化槽の長さ、幅に対してそれぞれ約500mm ずつ大きくする。 ・ 深さは製品 + 基礎分を掘削する。 ・ マンホール蓋はGLから30～50mm 高めに据付けする。  <p>H: 根切り深さは2m 以上として a b を設定 槽本体の平均深さ 1.792 ~ 1.939m であるが、かさ上げ 0.27m を加えると 2m 以上となるので a は下記のとおり。</p> <p>a: 作業ゆとり幅 2.0 < H ≤ 5.0 の場合 a = 0.5</p> <p>b: のり巾 b = 0.3H</p> <p>根切平均長 = 槽本体長 + (0.5+0.5) + (0.3H+0.3H) ÷ 2 根切平均副 = 槽本体幅 + (0.5+0.5) + (0.3H+0.3H) ÷ 2</p> <p>C: 上記が保てない場合、矢板を打って安全対策を充分にすること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 掘削深さは、配管勾配を考慮して決める。 ・ 嵩上げ 300mm を超えると維持管理作業が困難になるので、深埋めは 300mm 以内とする。 ・ 深く掘削しすぎた場合は、捨てコンクリートで埋め戻す。 ・ 地山掘削にあたっては <ul style="list-style-type: none"> ○ 1、2 級土木施工管理技士の資格を持つ者 ○ 若しくは地山の掘削作業主任者 ・ 土留の支保工等の講習を終了した者を従事させて下さい。 <p>注) 土圧が大きい場所、水場等は P36 ~ 38 参照</p>

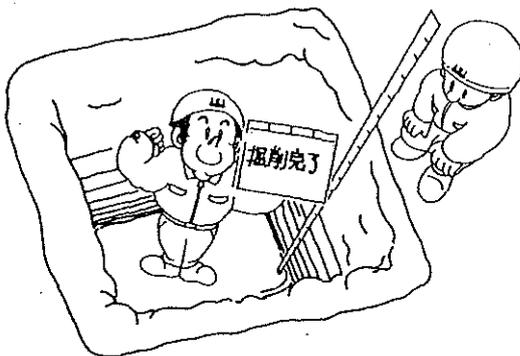
工 事 名	概 要	注 意 事 項	
掘 削 工 事	掘削高さとな法勾配		
	地山の種類	掘削面の高さ	
	岩盤または堅い粘土 からなる山	5m 未満	90°以下
		5m 以上	75°以下
	その他の地山	2m 未満	90°以下
		2m 以上 5m 未満	75°以下
5m 以上		60°以下	

- (1) 設置場所や流入管、流出管の方向を確認し、添付の仕様書や図面を見て必要な深度まで掘削する。深く掘りすぎると、せっかくの地山をいため基礎が不安定となり、水平が狂ったり、不等沈下を起こしたりする恐れがある。
- (2) 掘削幅は埋戻しが容易にできるように浄化槽本体の大きさに対し、余裕をもって掘削する。
(浄化槽の長さ、幅に対して約 500mm 大きく掘削し、深さは製品 + 基礎分を掘削する)
- (3) 土地や地下水の状況によって、土留工事、水替工事、あるいは潜函工事等の適切な処置をとること。

工 事 名	概 要	注 意 事 項
掘 削 工 事	<ol style="list-style-type: none"> ① 根 切 り 幅：浄化槽の納まり寸法を測り、必要に応じて石灰等で印す。 ② 根 切 り 深 さ：屋外勾配を考慮して印された基準点より、レベルにより測定する。 ③ 床 付 け：平坦度をレベルにより確認しながら、作業を進める。 ④ 土 質：根切り土質の確認を行う。 ⑤ 掘 削 工 法：土質や地下水の状況によって、土留工事や水替工事を行う。 ⑥ 地下埋設物：万一水道管、ガス管、電線管等を掘り出した場合はサポートを施して保護する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 掘削は、土質を考慮して作業幅を見込み、法勾配を考慮し、バックホーにて行う。 ・ 流入、放流等の管底及び放流先の関係を再確認する。 ・ また、掘りすぎないようにレベルで確認しながら作業を進める。 ・ 掘りすぎの調整は、捨てコンクリートで行う。

工 事 名	概 要	注 意 事 項
<p>索掘り工法 (オープンカット)</p>	<p>本例は、浄化槽の設置場所の周囲に十分な余地があって、掘削機械で掘削しており、掘削土を仮置きしている。</p>  <p>遣り方から基準として張った水系を利用して、掘削深さのチェックを行っている。</p>  <p>※ 足場は破損しないよう安全の為2枚重ね以上とする。</p> <p>掘削及び床付けがほぼ終了し、掘削底面の寸法をチェックしている。</p> 	

工 事 名	概 要	注 意 事 項
素掘り工法 (オープンカット)	掘削及び床付けが完了し、床付け作業に使用したシャベルやメジャーとともに、工程写真を撮影している。	



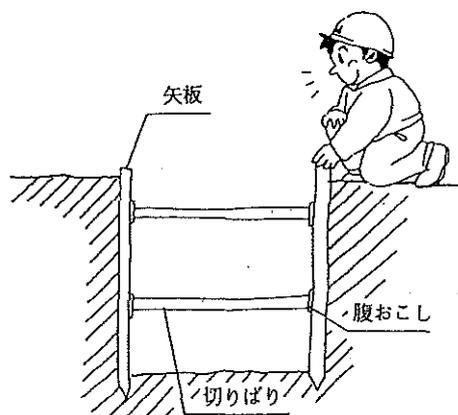
(土留め工法)

- 土留めが崩れると、重大な事故となりますので、現場監督者の指示によって行って下さい。

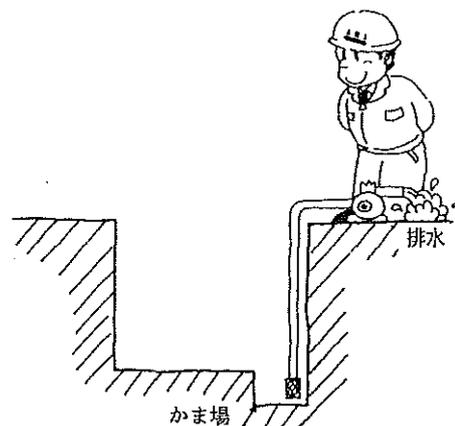
(湧水対策の例)

- 掘削面の含水率が高いまま基礎を設けると水平がくるうことがあるため、地盤の状態により適切な地盤改良等の対策を講じます。
- 湧水がある場合には、埋戻しができるまで水替えを行います。
- 掘削した底面には、周辺に排水用の溝を掘り、一部に釜場を設けて、その中に水中ポンプを設置します。

土 留 工 法



水 替 工 法



2-3 基礎工事

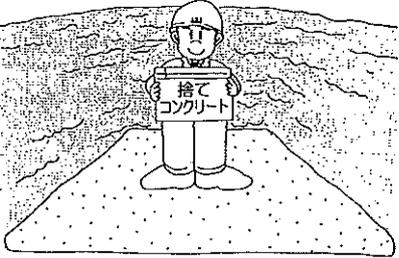
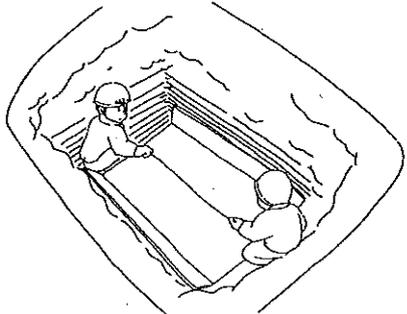
工 事 名	概 要	注 意 事 項
<p>(1) 砕石地業と鉄筋 コンクリートの基 礎</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 砕石（又は栗石）地業を行う。  <ul style="list-style-type: none"> • 砕石は目潰しを施しプレートで十分に転圧を行う。 • 不当沈下等が予測される場合は、砕石の代わりに栗石を用いる。 • 砕石地業の上に、捨てコンクリートを打ち、仕上げる。  <ul style="list-style-type: none"> • 適切な養生を行う。 • 捨てコンクリートの上に、通り芯、型枠の位置、その他（浄化槽本体の浮上防止金具の取付位置等）の墨出しを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> • 砕石（又は栗石）地業の仕上がり厚み :100mm • 捨てコンクリートの厚み :50mm • 水平に仕上げる。 コンクリート： Fc=18N/mm² 以上 スランプ =18cm 以下

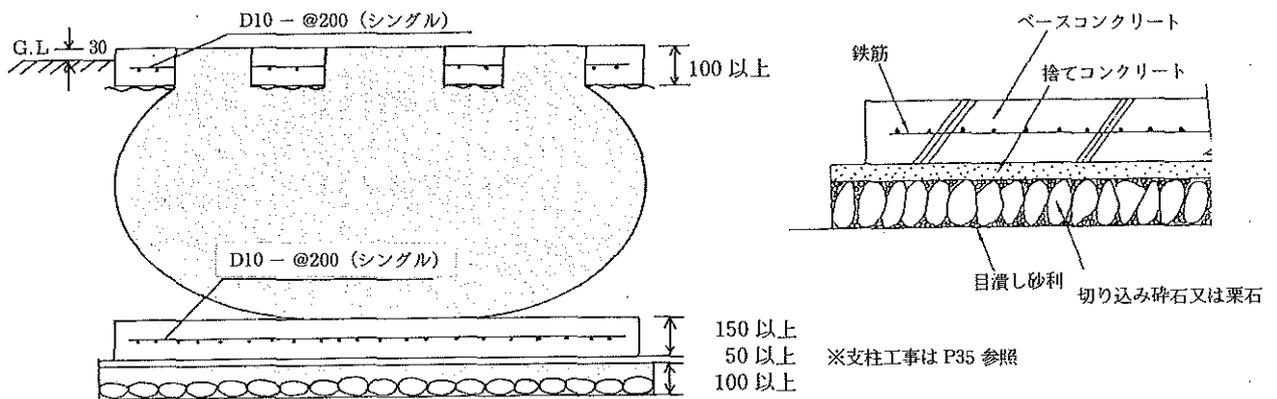
表3 基礎等の厚さ (標準施工の場合の例)

(単位 :mm)

基礎	切り込み砕石又は栗石		100mm 以上
	捨てコンクリート		50mm 以上
	鉄筋コンクリート	コンクリートの広さ	浄化槽の外形寸法以上 (プラス前後左右に 200mm ずつ広く)
		コンクリートの厚さ	150mm 以上
	配筋	D10 - @200 (シングル)	
上スラブ	鉄筋コンクリート	コンクリートの厚さ	100mm 以上
		配筋	D10 - @200 (シングル)
開口補強筋			4 - D13 (シングル)

※上記出典：HASS= 機械設備工事付随仕様書 (国土交通大臣官房営繕部監修)

基礎等の厚さ



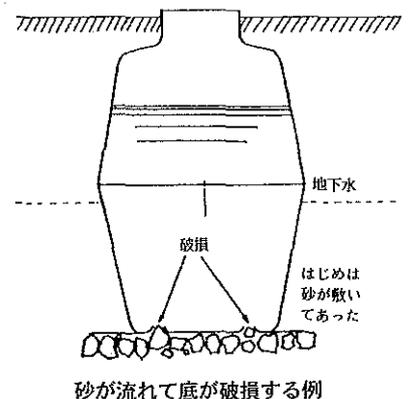
・スラブの広さについて

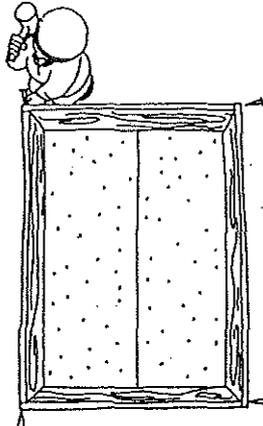
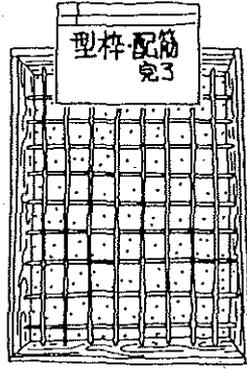
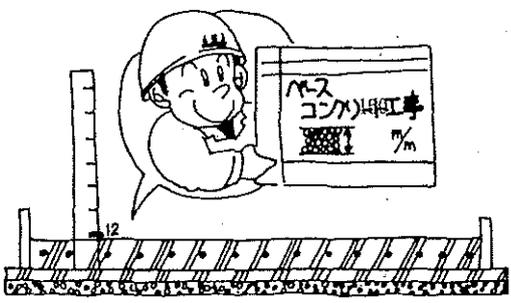
基礎コンクリート及び上部スラブの縦・横の長さは、槽本体の最も広い部分より縦横共に 400mm 広く、(前後左右に 200mm ずつ広く) 打設する。

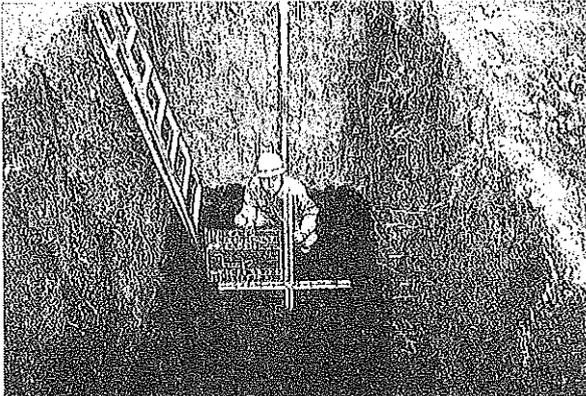
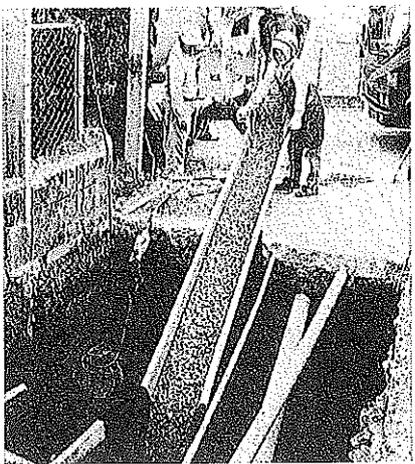
- マンホール蓋は GL から 30 ~ 50mm 高めに据付けする。

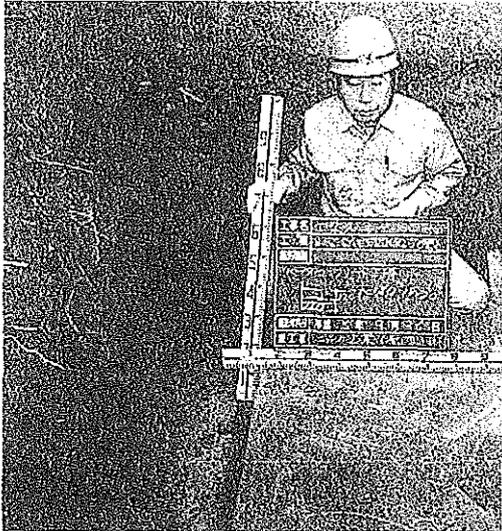
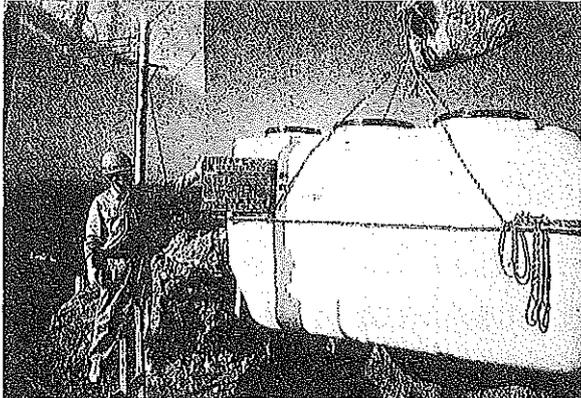
(捨てコンクリート)

- 砕石又は栗石の上のコンクリートを省略して、砂だけを敷いた基礎を造ると、長い間には砂が洗われて、砕石又は栗石の鋭角の部分が直接浄化槽の底面に接触したり、数個の石だけで槽全体を支えたりすることとなります。こうなると、その部分だけに浄化槽全体の荷重が加わって、部分破壊をきたすおそれがあります。
- また、地山がいかにかんがっていても、正しいレベルを保つように掘削を行うこと自体不可能なことです。
- 従って、浄化槽の保護及び正しいレベルをとるために、必ず捨てコンクリートを施して下さい。



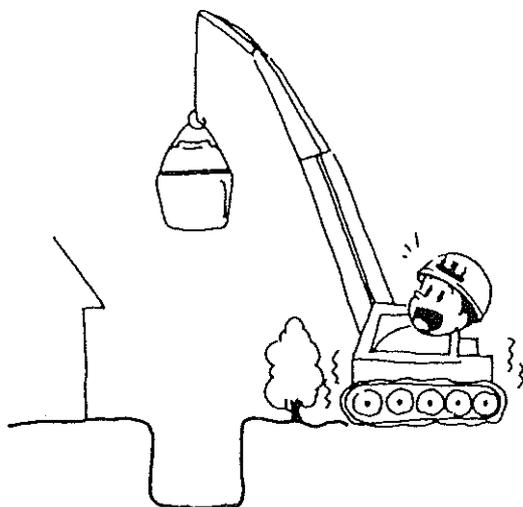
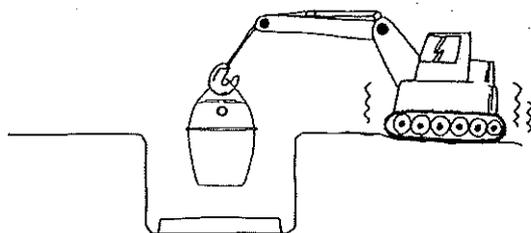
工 事 名	概 要	注 意 事 項
<p>(1) 砕石地業と鉄筋 コンクリートの基 礎</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 型枠工を行う。  <ul style="list-style-type: none"> • 鉄筋を組み立てる。  <ul style="list-style-type: none"> • ベースコンクリートを打ち、鋺等で水平に仕上げる。  <ul style="list-style-type: none"> • 適切な養生を行う。 • 型枠を取り外す。 	<ul style="list-style-type: none"> • 鉄筋 :D10 - @200 。シングル • コンクリートの適正な被りを確保するためにスペーサー (サイコロ) 等を用いる。 • ベースコンクリートの厚み :150mm <p>コンクリート : Fc=18N/mm² 以上 スランプ =18cm 以下</p>

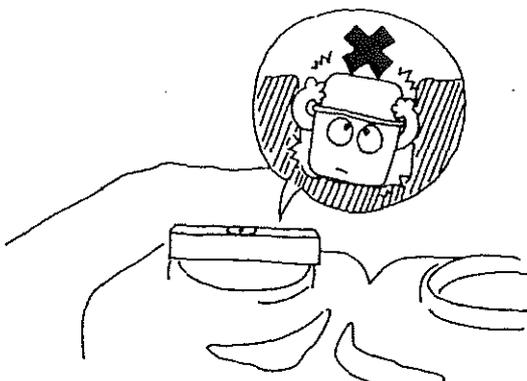
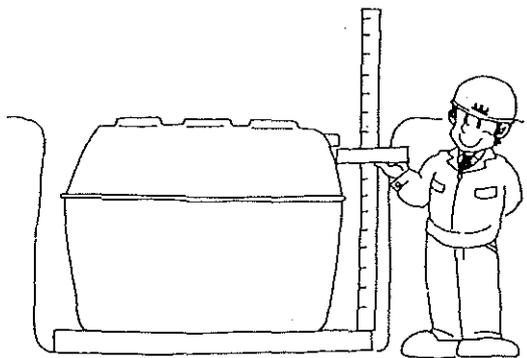
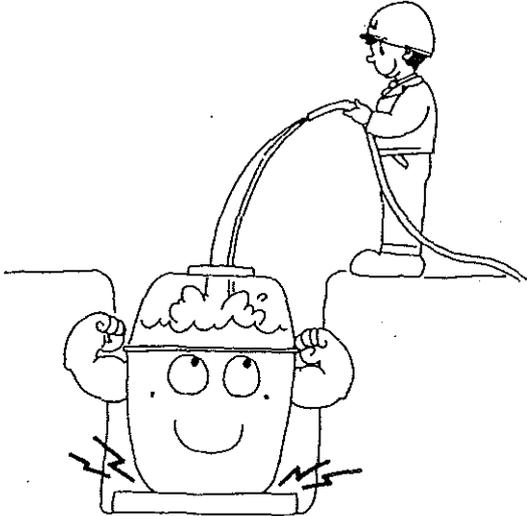
工 事 名	概 要	注 意 事 項
(2) 基礎工事の記録	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎の状況等は、記録を作成する。 ・ [指定工事写真] 写真 2 砕石地業を行ったことが分かる写真を写す。  <ul style="list-style-type: none"> ・ [指定工事写真] 写真 3 配筋の状態が分かる写真を写す。  <ul style="list-style-type: none"> ・ [指定工事写真] 写真 4 コンクリート打設状況。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要な写真を撮る等、記録に残す。 ・ 地盤調査の結果がある場合は、残す。 ・ 砕石の突き固めが終了後、深さの分かるスケールと共に写す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 黒 板 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 配筋の状態が分かるもの、ピッチが分かるスケールと共に写す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 黒 板 ・ 設備士顔写真 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ コンクリート打設状況及び家屋等周辺状況が分かる写真を写す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 黒 板 </div>

工 事 名	概 要	注 意 事 項
	<ul style="list-style-type: none"> •〔指定工事写真〕写真5 コンクリートを打った写真。  <ul style="list-style-type: none"> •〔指定工事写真〕写真6 本体搬入状況。 	<ul style="list-style-type: none"> • コンクリート養生後、コンクリート厚の分かるスケールと共に写す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> • 黒 板 • 設備士顔写真 </div> <ul style="list-style-type: none"> • 現場での浄化槽本体の搬入状況及び本体に明記されている型式・人槽が分かる写真を写す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> • 黒 板 </div>

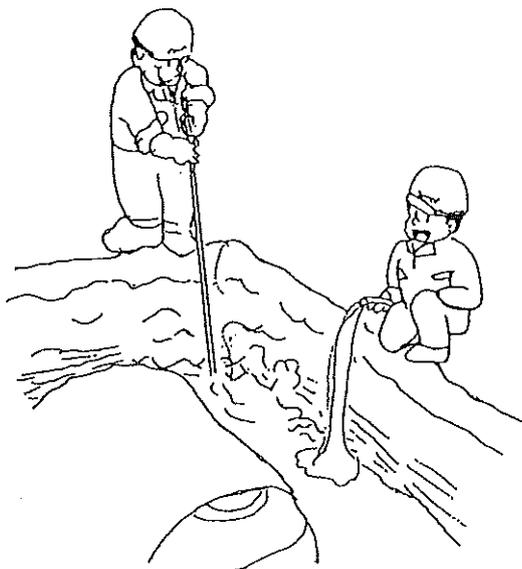
2-4 本体据付工事

工 事 名	概 要	注 意 事 項
<p>(本体据付工事)</p> <p>(1) 墨出し</p> <p>(2) 吊り込み、吊り降ろし</p>	<ul style="list-style-type: none"> ベースコンクリートの上に、通り芯、浄化槽本体の位置等の墨出しを行う。 浄化槽の吊り金具にロープを掛けて、静かに吊り込み、吊り降ろしを行う。 槽を吊りあげるときは、必ず4点吊りにすること。 場所によっては、大型クレーンを用いなければならない場合がある。垣根の向こうに設置しなければならないため、大型クレーンを使用している例。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭槽とはいえ、重量がある。 吊り降ろしの際には流入管、放流管の向きを確認する。 ベースコンクリートの上の小石や異物を除去しておく。 槽の内外に土砂等が入らないよう注意する。

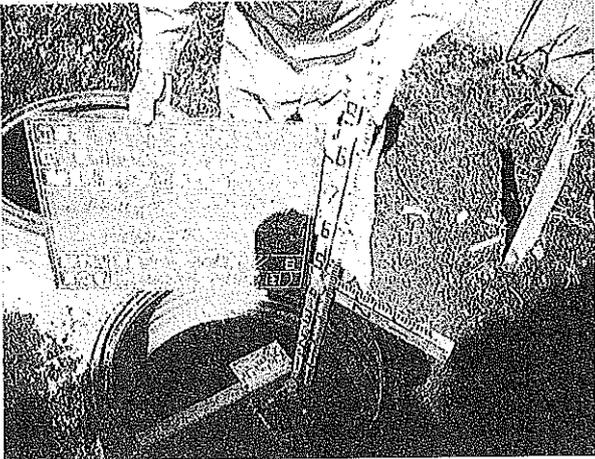


工 事 名	概 要	注 意 事 項
(3) 水平の確認	<ul style="list-style-type: none"> 水準器をマンホール枠上で、各方向に当て、浄化槽の水平を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 槽の水平がとれていない場合、ライナ等を槽の下に入れて調整する。この場合、必ず隙間にモルタルを充填する。
(4) 流入管、放流管のレベルの確認		
(5) 水 張 り	<ul style="list-style-type: none"> 槽の内部に異常のないことを確認して、所定の水位まで水張りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 水張りの目的 <ol style="list-style-type: none"> 槽本体を安定させ、埋戻しの際にずれたり、水平が狂うことを防ぐ。 埋戻しの際、土圧による本体及び内部設備の変形を防ぐ。 水準目安線等から、水平を確認する。 槽本体の漏水試験を行う。

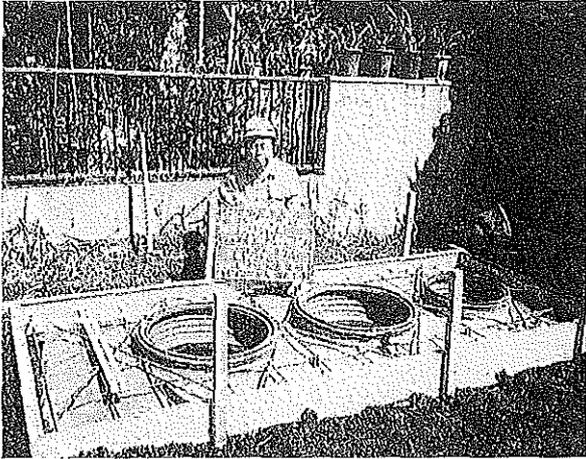
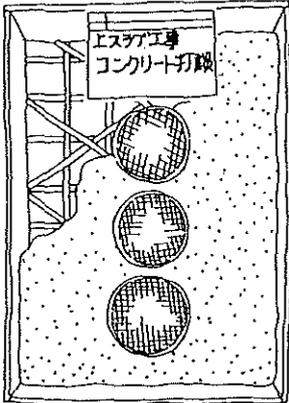
工 事 名	概 要	注 意 事 項
<p>(埋戻し工事)</p> <p>① 本体の養生</p> <p>② 埋 戻 し</p> <p>③ 水 締 め</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 埋戻しの際に、本体の開口部から土砂が入らないように、マンホール等にシート等で覆いをする。 • 埋戻しは、良質な土砂を用い、静かに、浄化槽の左右交互に振り分けるように行う。 • 掘削土が良質な場合は、埋戻しの土に利用する。 この場合、石塊その他、浄化槽を傷つける恐れのないこと。 • 良質でない場合は、別途に埋戻し用の良質土又は砂を用意する。 • 埋戻しは、途中で何度も水を巻き、埋戻し土の内部に空隙が出来ないように行う。 	<ul style="list-style-type: none"> • 埋戻しは、漏水の有無を確認した後に行う。 • マンホール蓋をのせ、配管接続口には、キャップがセットされていること。 • 衝撃を与えたり、埋戻しの土が片側に偏る等によって、槽を移動させたり、水平の狂いを生じさせたりしないこと。 • 土砂を槽本体の上に必要以上積まないこと。

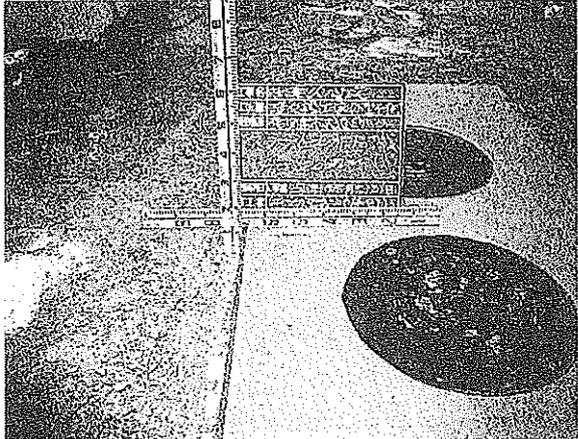


工 事 名	概 要	注 意 事 項
④ 突き固め	<ul style="list-style-type: none"> 水締めをして埋戻した箇所から、プレートコンパクター又はパイプロタンパー等を用いて突き固める。 先ず、浄化槽のフランジ部分（下半分）までを完全に水締めしながら突き固める。 次いで、同様に上半分の埋戻しを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 水締めと突き固めを交互に行って、配管可能なレベルまで埋戻す。 埋戻しの途中で、水平の確認を何度か行う。
⑤ 据付工事の記録	<ul style="list-style-type: none"> 〔指定工事写真〕写真7 <p>水張りを行い、本体の水平を確認しつつ埋戻しの作業を行っている事が分かる写真。</p> <p>※ 一枚の写真で撮れない場合は二枚に分けて撮ること。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 以下の道具が写っていること。 ア. 本体の水平を確認するための水準器 イ. 埋戻しの高さを示すスケール ウ. 水張り及び水締めに用いるホース エ. 突き固めの器具（プレートコンパクター又はパイプロタンパー等）及び埋戻しに用いる土砂（本体を傷つける恐れのある石等が入っていない土砂） <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・黒板 ・設備士顔写真 </div>

工 事 名	概 要	注 意 事 項
<p>(かさ上げ工事)</p> <p>・ かさ上げ工事の記録</p>	<p>・ スラブは、設置後の保守点検、清掃のし易さを考慮して、バルブ等の操作器具までの深さを45cm以内とすること。</p> <p>又、かさ上げの高さは最大30cm以内におさえること。</p> <p>※ 2-6 深埋め工事 (P24) 参照</p> <p>・ [指定工事写真] 写真8</p> <p>マンホール蓋の高さから、バルブ等の操作が可能であるかが分かる写真。</p> 	<p>・ かさ上げ部品は、専用部品を使用のこと。</p> <p>・ マンホールと同径のコンクリートカラーは、使用しないこと。</p> <p>・ バルブの上端からマンホール蓋までの距離が分かるように、スケールを当てた写真を写す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>・ 黒板</p> </div>

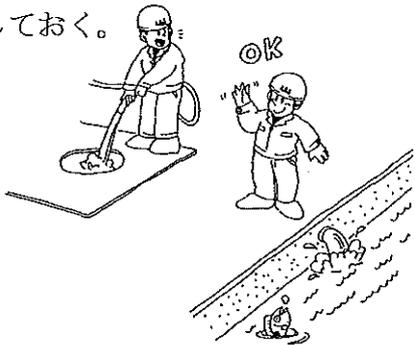
2-5 上スラブ工事及び竣工検査

工 事 名	概 要	注 意 事 項
<p>(上部スラブ コンクリート)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・〔指定工事写真〕写真9 配筋の状態が分かる写真を写す。  <ul style="list-style-type: none"> ・ 埋戻しをした後、十分な締め固めを行う。 ・ 型枠を組み立てる。 ・ 配筋を行う。マンホール開口部には、周囲に補強筋を施す。 ・ コンクリートを打ちこむ。  <ul style="list-style-type: none"> ・ 上部スラブは原則として、地盤面より 30～50mm 以上高くする等雨水等の流入防止策を講ずること。 ・ 十分な養生期間をおくこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 配筋の状態が分かるもの。ピッチが分かるスケールと共に写す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 黒板 ・ 設備士顔写真 </div> <p>上部スラブコンクリートの目的</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 点検時の作業を容易にする。 2 雨水が槽内部に侵入する事を防ぐ。 3 浮上防止のための下向きの力として作用する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 鉄筋 :D10 - @200 シングル ・ コンクリートの厚み :100mm ・ コンクリート : Fc=18N/mm² 以上 スランプ =18cm 以下

工 事 名	概 要	注 意 事 項
<p>(残土処分)</p> <p>(工事終了後の 後片付け)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ [指定工事写真] 写真 10 上部スラブのコンクリートを打った写真を写す。  <ul style="list-style-type: none"> ・ 仕上げ 打設後、コンクリートが未だ固まらない間に表面を金ゴテ又は刷毛で仕上げる。 ・ 残土の処分方法は、工事着工前に関係者との打合わせで決めておく。 ・ 全ての工事が終了した後、浄化槽の本体内外、コンクリートスラブの周辺等を水洗し、後片付け・清掃を行う。 ・ 本体、配管、及び柵の中に土砂、モルタル片、管の切りカス、木や鉄筋の残材等がないか確認し清掃を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ コンクリート養生後、コンクリート厚の分からスケールと共に写す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 黒 板 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 上部スラブコンクリート上の雨水がどちら側に流れるかを、関係者打ち合わせの上、表面に雨水勾配をとる。 ・ 処分の方法 <ol style="list-style-type: none"> ① 場内処分 ② 場外処分

(残土処分)

- ・ 残土の処分方法は、仕様書や上記のように関係者との打合わせ結果によりますが、他の工事との関連を考慮しておく必要があります。
- ・ 特に敷地が狭い場合、掘削しながら残土を持ち出さなければならないことも多く、このような場合には、掘削土の置場、他の機材の置場等に注意して作業計画を立てておかないと、残土のために作業制限を生ずることとなります。
- ・ 掘削した土の容積は、土質によって相違しますが、掘削前の自然土の容積に比べ通常 20% 程度増加します。
- ・ 良質土の場合、埋戻しを行った後の残土処分を行う際のダンプトラックの手配は、これを考慮して行う必要があります。

工 事 名	概 要	注 意 事 項
(工事内容の確認)	<ul style="list-style-type: none"> 全ての工事が適切に行われたかどうか、確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 国庫補助対象合併処理浄化槽『施工に関する審査チェックリスト』を参照。
(試運転・調整)	<ul style="list-style-type: none"> 浄化槽の内部設備及びブロワ、ポンプ等機械設備については、試運転を行い、稼働状況の確認及び調整を行う。 	
(竣工検査)	<ul style="list-style-type: none"> 試運転調整が完了したら、必ず所轄関係官庁の竣工検査を受ける。 検査時には、 24時間前に、 槽内に水を満たしておく。 <p style="text-align: center;">検 査 ・ 確 認</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 維持管理業者が決まっている場合は、立合いを求め、必要な引き継ぎを行う。 国庫補助対象浄化槽の場合は、市町村担当者の検査がある。 できれば、管理者（使用者）の立合いが望ましい。
(引 渡 し)	<ul style="list-style-type: none"> 管理者（使用者）に使用上の注意事項や保守点検、法定検査等について説明する。 用意する説明資料には、次のようなものがある。 <p>① 認定シート ② 竣工図面 ③ 届出書類の写 ④ 『使用説明書』 ⑤ 『保証書』 ⑥ 登録管理票B票 ⑦ 機能保証登録証等。</p> <p style="text-align: center;">引 渡 し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 新築の場合等で、資料の手渡しができない場合には、これらが管理者（使用者）に渡るように建築業者、管理業者に依頼する。

2-6 深埋め工事

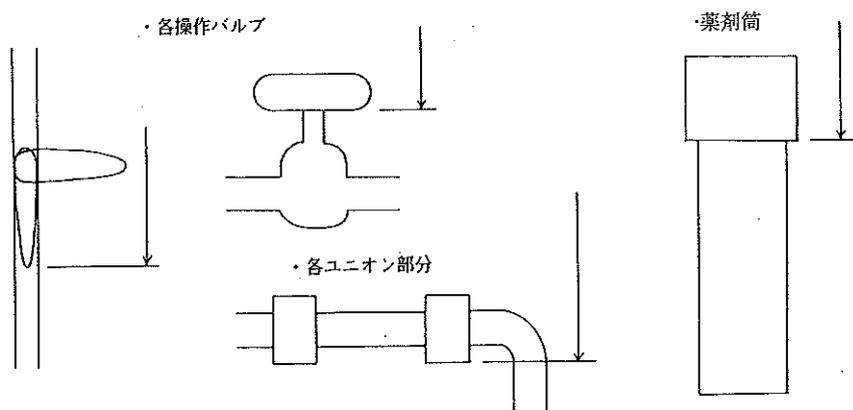
深埋めする場合は（標準工事より深くなる場合）、保守点検、清掃及び槽の強度等に支障がない様に次のような要領で行う。

(1) 嵩上げ工事

開口部分だけを立ち上げる場合は、以下の a) b) c) の条件を全て満足しなければならない。

- a) 嵩上げの高さは最大 30cm 以内とすること。
- b) 保守点検、清掃時にバブルなどの操作や薬剤の補充が確実に実施できるよう、スラブの上端から下記の機器類の一番下まで 45cm 以内とする。

各操作機器類までの距離



- c) 無理にマンホール内に首をいれる等しなくても採水ができ、かつ目視による点検が可能なこと。

※ 型式認定浄化槽の内部は変更してはならない。

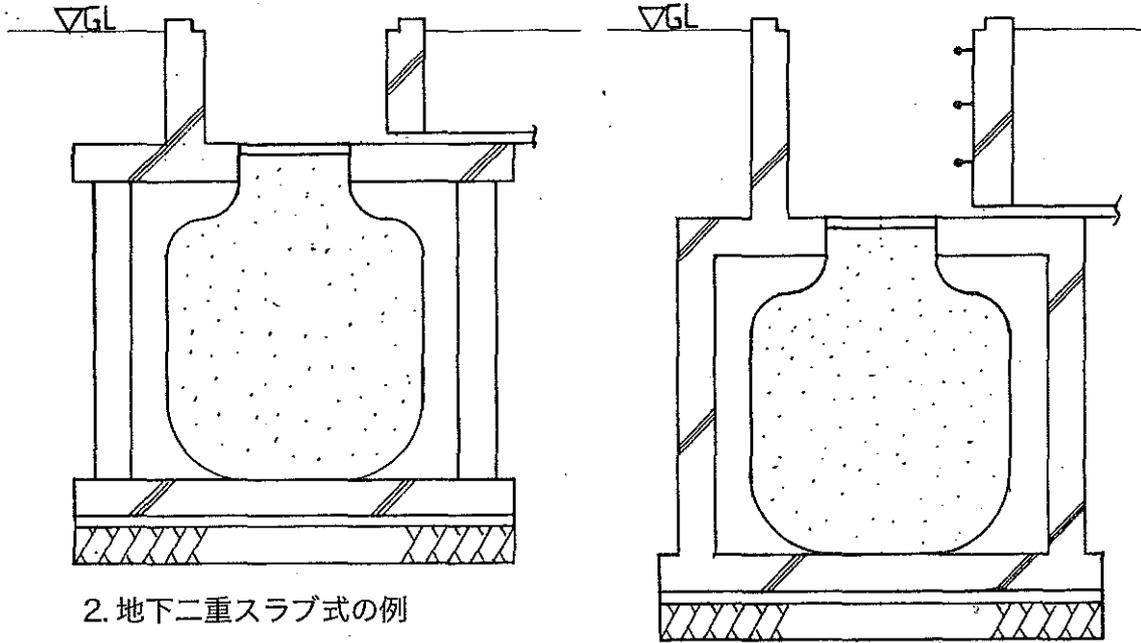
嵩上げ工事のできない場合は次のピット工事とすること。

(2) ピット工事

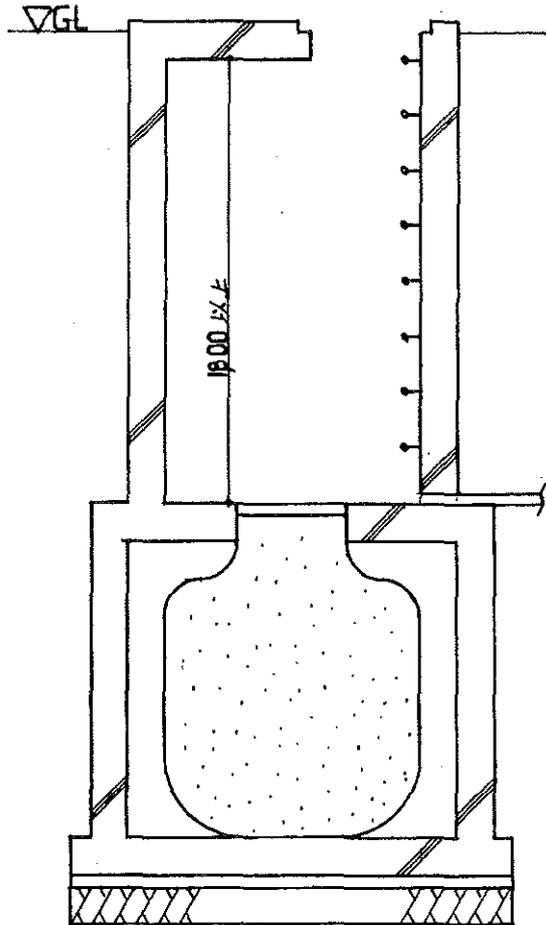
- a) ピット内は、作業スペースを十分確保すること。
 - b) 外部の圧力が槽に直接掛からないように施工する。
状況に応じて上部の土圧や側圧による破損防止の為、支柱工事や擁壁工事を行う。必要に応じてメーカーにプライ増しの発注をする。
 - c) ピット内底部は雨水勾配をとり、雨水のドレンを放流側の升等に接続すること。
 - d) ピットが深い場合は、トラップを設けること。
 - e) 地上上屋式、全地下二重スラブ式等は、保守点検、清掃が容易にでき、かつ十分に換気を行えるようにすると共に、必要な照明設備等を設けること。
 - f) ピット上部のチェッカープレートは、一人で容易に開閉できる大きさ、及び重さとする。
- 図7にピット工事の例を示す。

深埋め工事の例

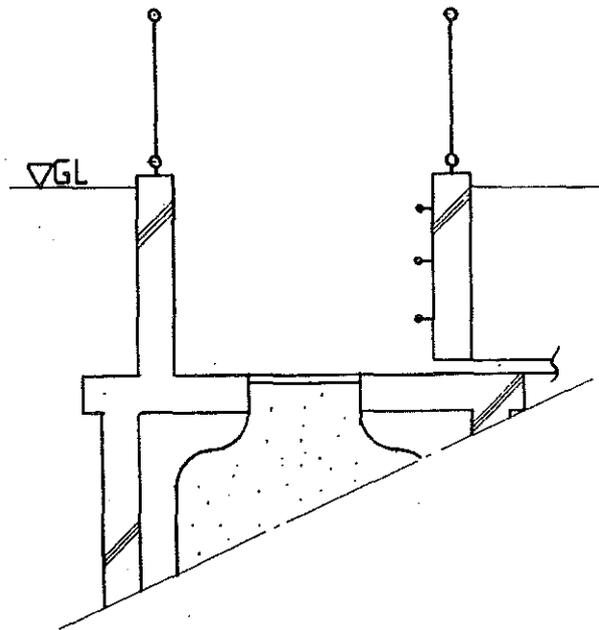
1. ピット工事の例



2. 地下二重スラブ式の例

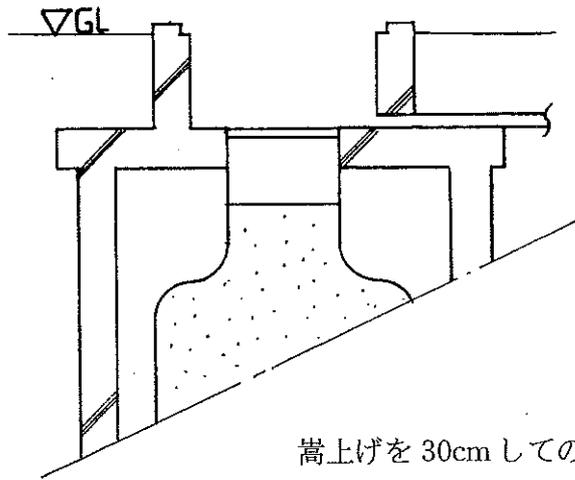


3. フェンスで囲う例



- ① 地下二重スラブ内の高さは、保守点検が容易にできるように1,800mm以上とする。
- ② ドレンは放流升又は、放流ポンプ槽へ接続する。

4. 悪い例



嵩上げを 30cm してのピット工事。

5. ピット内の広さ

